

※「かたる」という言葉は、岩手県の方言で「参加する」、「集う」、「加わる」などを意味します。

地域

の 話 題

「料理実習を通じて楽しく生活できる地域づくりを目指す。」

クラブ「男厨会」男の料理教室（雫石町）大村悦正会長 会員 16名

雫石町のクラブ「男厨会」男の料理教室は、料理教室を通じて、町内の方々との親睦と融和を図り、生き生きと楽しく生活することができる、地域づくりを目指しています。（写真は昨年度実施のものを掲載）

平成10年に雫石町が中心となり、地域の60歳以上の男性が自分で料理を作れるようになることを目的に「男の料理教室」が開設され、会員20人程度で活動をしていました。

平成25年には上記活動を引き継いだクラブ「男厨会」を設立しました。

会員の経歴は、元教員、元公務員、（県職員、市職員、町職員）元JA職員、会社員、大工等多種多彩ですが、健康管理のための正しい食生活を自分で管理できる能力や、料理の技術向上を図りながら、その成果を日常生活に活かすことを目標に日々活動しております。

毎月第2土曜日を料理実習日として町の中央公民館の調理室を利用し、町食生活改善推進員団体協議会から講師を招き活動をしてい

ます。先にご紹介しましたが会員の元職業が多岐にわたるため、料理後の会員相互の懇談も楽しみの一つとなっています。

今年度はコロナ禍のため中止しましたが、毎年8月には町の社会福祉協議会が主催する「ボランティアフェスティバル」に参加し、焼きそば店を出店し、来場者へ振る舞っています。

11月には町内にお住まいの60歳以上の一人暮らし高齢者を対象とした昼食会を開催しますが、その昼食は「クラブ男厨会」の会員が丹精込めて作ったお弁当を提供しています。参加された方々からは、「美味しいだけではなくて、見た目も美しくて素敵」「市販の弁当と違って自然で美味しい味付け」等の好評を得ています。



【蕎麦打ちの様子】

12月の蕎麦打ちの匠を講師にお招きしての、年越し蕎麦打ち会は、今年はコロナの関係で、1グループ3～4人で、3回に分け、概ね200食程度の蕎麦を打っています。

その他には、町食生活改善推進員団体連絡協議会主催の料理講習会への年1回の参加や交流活動。また、町社会福祉協議会広報の末巻に掲載されている「クラブ男厨会おすすめレシピ」への紹介なども継続していく予定としています。

《今後の展望》

現在、会員の高齢化が問題となっていることから、広報活動に力を入れ新規会員の獲得に努めるとともに、コロナ禍により以前のような活動ができなくなってきたので、逆に新しく工夫できることの発掘などにエネルギーを傾注して活動を継続したいと考えております。



【ボランティアフェスティバル】



【丹精こめたお弁当】

（ここで紹介した団体の、事業の一部に、公益財団法人いきいき岩手支援財団「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。）

令和2年度版高齢社会白書～高齢者の暮らしの動向について

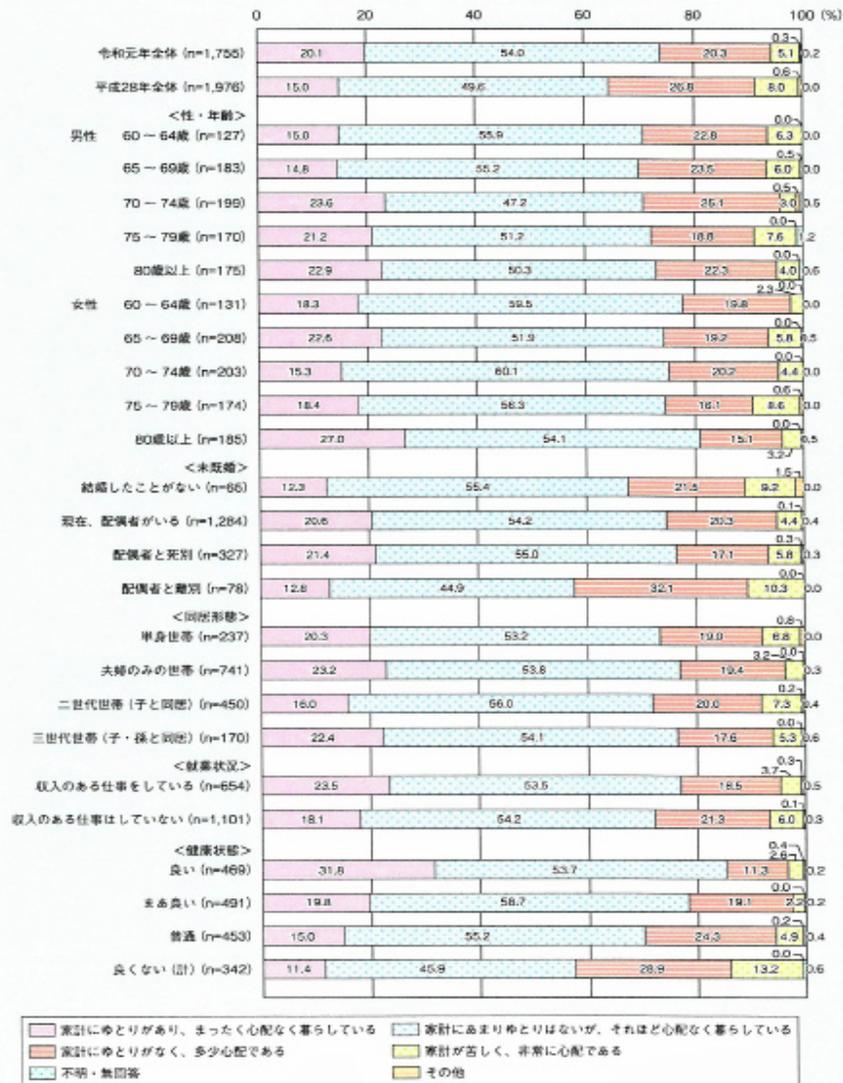
政府は令和2年8月に、令和2年度版高齢者社会白書を発表しました。我が国の総人口は令和元年度(2019)10月1日現在、1億2,617万人となっております。65歳以上の人口は、3,589万人、高齢化率は、28.4%となりました。また、本県の人口は122.7万人、65歳以上の人口は40.6万人、高齢化率は33.1%となっております。今年の白書では、60歳以上の人を対象に経済生活全般についての実態や意識を把握するために行った調査の結果が掲載されています。

全国の60歳以上の男女に、現在の経済的な暮らし向きについて聞いたところ、「家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている」が20.1%、「家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている」が54.0%となっており、合わせると約4分の3(74.1%)が心配なく暮らしていると回答しています。なお、平成28年「高齢者の経済・生活環境に関する調査(内閣府実施。以下「平成28年調査」という。)の結果では、心配なく暮らしているとする割合が、各6割強(64.6%)となっており、今回調査の方が心配なく暮らしている割合が高くなっています。

性・年齢別にみると、心配なく暮らしているとする割合が、各年齢階級では男性より女性の方が高く特に80歳以上では、8割以上(81.1%)が心配なく暮らしています。未既婚別にみると、結婚したことがない人や配偶者と離別した人は、心配なく暮らしていると

する割合が低くなっています。同居形態別にみると、三世帯世帯(子・孫と同居)及び夫婦のみ世帯で暮らしている割合はやや高くなっています。健康状態別にみると、健康状態が良いほど、心配なく暮らしている割合が高くなっています。

図1-3-1 経済的な暮らし向き(性・年齢別、未既婚別、同居形態別、就業状況別、健康状態別)内閣府「高齢者の経済生活に関する調査(令和元年度)」



「シニアが元気！地域も元気！」いきいきシニアセミナー開催

社会の高齢化が進展する中、定年退職後の第二の人生にも生きがいを求め、意欲を示すシニアが増えています。そのようなシニアが社会参加することにより地域が活性化し、高齢者をはじめ誰もが住み慣れた地域で生きがいを持って暮らせることを目指して開催します。

日時 令和3年2月2日(火) 13:30～15:00

会場 アイーナ5階 会議室501

講師 社会福祉法人光林会 理事長 三井信義 氏

定員 30名(参加申込はコーサポいわてまでご連絡ください。)



県内各地で活動している高齢者の団体を紹介します。

「歴史文化を活かしたまちづくりの推進を目指す。」

紫波歴史研究会（紫波町）代表理事 佐藤観悦 会員 16名



会長の佐藤観悦さんは、国の三十三観音の六番札所である「嶋の堂観音」の第20代の別当を務めておられます。盛岡市教育委員会学芸員を務めた親戚の方の協力もあり、紫波地域の歴史文化の調査研究を推進し、その成果を国内外に発信することにより、歴史文化を生かしたまちづくりの推進に寄与することを目的に平成29年11月に「紫波歴史研究会」を設立しました。

会の活動としては、平成30年に紫波町の助成で「紫波五郎沼歴史ネット整備事業」を行い、ホームページの開設や講演会事業の取組、町広報誌やマスコミ媒体等を通じて周知を図り、閲覧者及び講演会参加者数は確実に増加してきています。

翌年、平成31年には町の助成で「紫波歴史探訪構築事業」を行い、歴史文化を分かりやすく、楽しく学ぶことができるスマホ世代を対象にした「紫波歴史ガイド」を作成し、若年、中年層に対する歴史文化の広報や教育普及の向上を行っています。また、スマホ用ツールは、観光物産、飲食、イベント等への活用も期待されているところです。



【赤沢郷土資料館見学風景】

令和2年度からは紫波の歴史遺産魅力探求事業を行っています。

「歴史遺産調査事業」として、紫波町を3ブロック（東部・中央部・西部）に分けて、各ブロックごとに、歴史遺産（古文書、古記録、古写真）の調査を行い、調査結果については、ブロックごとに報告会を開催することとしています。

また、「歴史講演会開催事業」として、紫波町への歴史の特性を示す内容について、専門家を講師に招き講演会を開催しており、今年は「盛岡城跡の石垣と長岡の石切丁場」と題し、歴史研究者の方から、国歴史史跡盛岡城跡の石垣の特徴、全国の石切丁場と近郊の石切丁場について解説していただきました。



【似内啓邦先生の講話】

（ここで紹介した団体の、事業の一部に、公益財団法人いきいき岩手支援財団「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。）

このほか、各地区に所在する歴史遺産への理解や関心を高めるとともに、その価値や魅力を活かしたまちづくりへの参加を醸成するため、「歴史探訪ガイドツアー事業」として、各年度1ブロック、歴史遺産をツアーを行っており、今年度は「平安仏とキリシタンの里を探訪する」と題し、一般公募した40名の方とマイクロバスで長岡八坂神社、正音寺、佐比内熊野神社、是信房墓所等の神社や寺院等を巡りました。

地域の歴史遺産は、地域統合や地域コミュニティの核であり、地域に対する愛着を育み、地域アイデンティティを醸成する地域資源として、次世代に継承していく必要があります。

今、歴史遺産をどう伝えていくのか。歴史遺産（地域のお宝）の保存と継承が大きな地域の課題となっています。継承を継続させる方法や組織づくりを地域の視点で考えること、を今後その実践の中核を担う若い方々の目線で考察や提言をする必要があります。

岩手県立大学と協働で取り組んでいます。

会員の高齢化が進んでおり、会員の獲得に努める必要はありますが、調査等についてのノウハウは外部に求め、情報発信に特化する運営を考えています。

令和2年11月に紫波町の神社や寺をめぐる「紫波町東部歴史探訪ツアー」を企画しました。日頃の研究や調査を通し、平安時代に作られた仏像など、町には豊富な遺産があることを踏まえて「歴史を生かした、地域の在住者を呼び込むような町おこしを行いたい。」と考えています。

【探訪ツアー出発前 紫波中央駅前】



令和2年11月「紫波町東部歴史探訪ツアー」スナップ写真と参加者ご感想（抜粋）



【赤沢郷土資料館】

資料館は見ていて、興味深く、昔を思い出してほのぼのとした気持ちになりました。
(60代女性)

特に興味深いところはありましたか？



【七物薬師像】

昔に戻った七物薬師を地元で見ることができて良かったです。(60代女性)



【正音寺】

遠山正音寺での説明。

(70代男性)

正音寺の和尚さんの話をもっと聞きたかったです。

(60代女性)

紫波町の往時の繁栄を感じることができた。よくよく勉強できた。最高でした。次回もぜひ参加したい。

(60代男性)

【長岡八幡神社】



令和3年度ご近所支え合い活動助成金第1次募集のご案内

岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンター（以下「コーサポいわて」という。）では、令和3年度「ご近所支え合い活動助成金」の申請を受け付けています。第1次の締切は、令和3年1月15日（金）必着。

「ご近所支え合い活動助成金」とは、県民が共に支え合う地域貢献活動を支援し、安心して暮らし続けることができる地域社会を実現するため、県民の社会貢献活動を支援するための助成制度です。

概ね市町村単位もしくは市町村の一部で行う、①高齢者が主体となって行う活動 ②高齢者等をサービスの対象とした活動を対象としています。助成額は、初年度が上限30万円を限度、2年目、3年目がそれぞれ15万円を限度、下限は5万円、最大3年を限度として助成。（継続する場合も申請、審査は毎年度必要）新型コロナウイルス感染予防のための消耗品（非接触型体温計、マスク、消毒用アルコール等）も経費として認めています。申請についてのお問合せは、コーサポいわて までご連絡下さい。（連絡先 019-606-1774）

※本助成金の詳細は、ホームページでもご覧になれます。（「コーサポいわて」で検索）

岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターは、特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会が岩手県から受託して運営しています。

〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2-4-16やまのえんビル1階 tel 019-604-8862 URL <http://www.hfk.or.jp/>